

令和6年度第3回新発田市子ども・子育て会議 会議録 概要

会 議 名	令和6年度第3回新発田市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和6年7月29日（月）午前9時30分～10時53分
開 催 場 所	新発田市役所 本庁舎5階会議室501、502
議 題	(1) 令和5年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について (2) 新発田市こども条例（仮称）アンケート集計結果について (3) その他
出 席 者	<p>【委員】 11名 金山会長、木村副会長、大堀委員、吉井委員、大川原委員、小林委員、村山委員、阿部（敬）委員、熊倉委員、阿部（聡）委員、小池委員</p> <p>【説明課】 （健康推進課）清野課長、（青少年健全育成センター）古田所長、（学校教育課）彌源治課長、（地域安全課）長谷川課長、（人権啓発課）渡邊課長、（社会福祉課）山下課長</p> <p>【事務局】 （こども課）沼澤課長、宮村課長補佐、石山課長補佐、藤倉副参事、原係長、石倉係長、佐藤係長、宮村係長、島岡主任</p> <p>【看護実習生】 新潟青陵大学看護学部看護学科 学生3名</p> <p>【オブザーバー】 （調査委託業者：第四北越リサーチ&コンサルティング株）小林、近</p>
欠 席 者	松田委員、野崎委員、森本委員、斎藤委員、大久保委員、平野委員
公開・非公開 の別	公開
傍聴人の数	0人
配 布 資 料	<p>①「令和6年度第3回新発田市子ども・子育て会議次第」及び委員名簿</p> <p>②資料1 令和5年度新発田市子ども・子育て支援事業計画「第4章施策の展開」事業実績</p> <p>③資料2 令和5年度新発田市子ども・子育て支援事業計画（実績報告）</p> <p>④資料3-1「新発田市こども条例（仮称）」をつくるためのアンケート（小学校低学年）</p> <p>⑤資料3-2「新発田市こども条例（仮称）」をつくるためのアンケート（小学校高学年～中学生）</p> <p>⑥資料3-3「新発田市こども条例（仮称）」をつくるためのアンケート（高校生）</p> <p>⑦資料3-4「新発田市こども条例（仮称）」をつくるためのアンケート（施設の方）</p>

	⑧資料3-5「新発田市子ども条例（仮称）」をつくるためのアンケート（一般） ⑨当日配布資料 新発田市子ども条例（仮称）について
議題(1) 令和5年度新発田市子ども・子育て支援事業計画の実績報告について	
各課長	議題(1)について各々説明
各説明課	議題1について各々説明
大堀委員	新潟県の自転車のヘルメット着用率は低く、子どものときからの対策が必要と考える。市が実施している対策はあるか。
地域安全課	子どもたちに対し、自転車教室、交通安全教育の中でヘルメットの着用を指導している。また、令和6年4月から県の補助事業と合わせて、当市では18歳の未満の方を対象に、ヘルメット購入の助成（上限2,000円、県・市が半々）を支援している。今後も新潟県とともに、当市も推進を続けていく。
大堀委員	子どもだけでなく、その教える側となる親世代も着用が必要である。市全体で広報活動や指導に尽力願いたい。
熊倉委員	「親と子の料理教室事業」の前年度実績の達成度は未達となっているものの、親子にとって良い取組だと思う。参加者の募集は広報などでおこなっているのか。
健康推進課	学校にチラシを配布しており、地域の食生活改善推進委員の事業として実施している。今後、開催回数を増やしていけるように、イクネスなどの施設と連携しながら検討していきたい。
審議結果	出席委員の全員が賛成し、承認された。
議題(2) 新発田市子ども条例（仮称）アンケート集計結果について	
子ども課長	議題（2）について説明
大堀委員	子どもワークショップの開催についてうかがう。どのように子どもの参加を呼びかけているのか。
子ども課	今回のワークショップは、小学校5年生から高校3年生までを対象に、2回実施する予定である。7月初旬に市内の学校にチラシを配布し、また、市のHP、公式LINE、X（旧Twitter）で周知している。 1回目は人権かるたをもとに、自分が大切だと思う権利を身近なもののテーマに置き換えて考える内容となっている。2回目はファシリテーターを招き「新発田市を住みやすいまちにするにはどうしたら良いか、こういうまちになってほしい」とのテーマについて、堅苦しくない雰囲気の中で話し合ってもらう。敬和学園大学の学生、先生に協力をいただき、実施する予定である。
大堀委員	ワークショップの参加者が少ないと、アンケートから子どもの意見を取り入れていく方法となると思う。一方、できるだけ当事者である子どもの意見を取り入れた条例をつくるため、ワークショップを実施すると市の意思を感じることから、参加者を増やし、ワークショップで意見を直接聞く方法ができることが望ましいと考える。 また、条例発効の際は、子どもにもわかる要約のようなものを同時に発表すれば、子どもたちも一緒につくった条例、子どもたちのための条例であると伝わると思われる。漢字に読み仮名をつけるなど、子どもたちに向けた配慮も必要と考える。誰に対しての条例なのかがわかるように発信してほしい。
子ども課	ワークショップでの意見は、「条例の中にこのように反映された」とのフィードバックをする予

	<p>定である。</p> <p>また、県の子ども条例策定時と同様に当市においても、パブリックコメント実施時には大人向けだけでなく、子ども向けもおこなう予定であり、子どものための条例ということがわかるように努めていく。</p>
金山会長	<p>高校生対象のアンケートで、「新発田市に将来住みたいと思うか」との設問の自由記入欄に「そもそも新発田市に住んでいない」という意見がみられた。今後、このような調査実施時には、調査の精度を上げる観点からも新発田市在住の生徒に絞るなどの対応を検討していく必要があると考える。</p>
審議結果	<p>出席委員の全員が賛成し承認された。</p>
<p>議題(3) その他</p>	
事務局	<p>なし</p>
大川原委員	<p>ワークショップについておうかがいしたい。参加者は何人くらいを想定し、どこで実施するのか。</p>
こども課	<p>8月3日、8月10日の2回とも、イクネス新発田での実施を予定している。新発田市に住んでいる子どもを対象に、定員は20名としている。</p> <p>両日程参加を原則として募集していたが、1回のみであれば都合が付き参加したいとの声もあり、どちらか一方のみの参加でも可能とした。</p>
<p>その他</p>	
事務局	<p>事務局からの連絡</p> <p>①次回の会議開催予定（令和6年10月上旬を予定）について</p> <p>②今回会議の議事録を市ホームページに掲載する</p>
<p>閉会</p>	